

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4年 3月 11日

公表:令和 4年 3月 18日

事業所名 児童発達支援事業所ほっと

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		今年度は感染症拡大予防に配慮し、利用人数の制限をして広いスペースを確保してきた。	コロナ対応においては限界も感じているがさらに対応を考える
	2 職員の配置数は適切である	○		急な相談にも対応できるように、職員の配置をしている。	安全と安心につながるスタッフ対応を目指す
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		玄関には靴を脱ぐ場所、靴下を入れる箱、カゴなどを分かりやすく個々の色で示している。身支度を行う動線を短くし、親が子どもに教えやすく構造化している。	構造化された環境を家庭で応用できるかも検討しながら対応していく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		感染症予防対策を徹底し、毎回使用後に玩具や設備の消毒や清拭を行っている。	コロナ禍明けとなればそこも対応していく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常に話し合っており、効率よく業務が行えるようにしている。	改善していくことに努めていく
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		指摘されたことに対して真摯に受け止め、話し合い改善に努めている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部評価が必要であると感じているので、導入し、負担等で折り合いがつけば導入し業務改善につなげたい。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		保護者支援(ペアレントトレーニング、傾聴)、発達支援(PT、OTなどによる専門職による講話)、権利擁護など、できる限りの時間の確保をして研修に参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		独自のアセスメントシートを使用しているが、保護者の視点も尊重して計画を作成し、課題を共有している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	医療機関での発達検査結果等をもとに子どもの状況を把握しているが、	今後は標準化されたアセスメントツールを取り入れていく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		項目に明示されていないが、発達支援、家族支援、地域支援の内容を計画に盛り込んでいる。今後は項目に落とし込んで整理して見直す。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		行っている	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		常に話し合い、見直し、伝達しながら立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		プログラムは固定化せず、柔軟に組み立てている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		発達段階に合わせて、集団活動に参加する前に大人との良好な関係作りのための個別対応についての内容を計画に盛り込んでいる。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々の記録をもとに、前回の様子等について、活動前に職員で共有している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日々行い、共有している。必要に応じて、個別検討会を行う。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		周知徹底、確認と記録は欠かさず行っている。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		発達には個人差があり、その速さも様々であるので、モニタリングは必要である。保護者とともにモニタリングを行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		相談支援事業とも連絡を密にしている。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		市の子育て支援センター、療育センター、家庭児童支援課など関係機関と随時連絡を取っている。	今後は他事業所との連携等も検討していく	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			実施していない		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			実施していない		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行期においては移行先のスタッフが見学に来るなど情報共有が行われている	次年度の入園先、一時保育を利用する時、利用児の所属している園と必要に応じて話し合いの機会を作っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		担当者会議等で地域の小学校と情報共有している。	主に保育園移行だが相談員と小学生に上がる時に使える地域生活支援事業などの情報共有などは行っていく	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センターへの移行児も多いため連絡は取っている		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		保育園やこども園との交流はないが、市内の児童館へ出向き、地域の遊び場を紹介したり、その職員へ配慮等をお願いしている。		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		同事業所スタッフが担当者として参加している		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		ふり返りノートを作成して、定期的なやり取りの他に、個別の懇談を随時行っている。		
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		職員がペアレントトレーニングを学び、その要素を踏まえた支援を行っている。		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用時に説明を行っている。必要があれば随時対応している。		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		個別支援計画を作成して各項目と内容を説明の上、同意を得ている。支援の目標と手立てについては、具体的な方法を示すようにしている。		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		親子通園であるので、保護者からの相談にはその都度対応できている。また、内容については職員間で共通認識しておく。		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者の時間やOB・OGなどの場を提供している	今年度は感染症拡大予防に配慮し、保護者の交流会は十分できなかったが、手作り教室などリフレッシュのための時間を提供した。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者からの相談は相談支援とも連携し速やかに対応している	子育て支援センターなどに気軽に遊びに出かけられない、感染症が怖い等で遊び場がないなどの要望に応じて、可能な時間に施設開放を行ってきた。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを出している		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取り扱いについては十分注意し、必要に応じて同意を得ている		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者同士の交流に必要な場所の提供、サポートブック作成支援をしている		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域を巻き込んだ行事は行っていない。地域の行事は代表者が出席する。	地域との交流できる機会を検討していく	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは作成し訓練を実施している。感染症対策については書面にて保護者に配布している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		グループごとに定期的な訓練を行っている。今年度は津波についても加えた。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者の方からいただけるが受診後に変更もあるので、その都度保護者に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		原則食事の提供はおこなっていない。アレルギーの状況については保護者に確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事業所全体ではおこなっているが事例集にまでは至っていない	ヒヤリハットについて、さらなる共有の必要性を感じている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修にて「虐待防止法」の説明、ケース検討会を実施している	無意識で行っていることで、本人が気づかない場合には嚴重に注意をするとともにどうすればよいかについて話し合う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		原則保護者との支援のため支援者の身体拘束は行っていない。	計画には記載していないが、常に何が虐待に相当するかなど職員間で確認して生命を守るための身体拘束については、保護者にその場で説明する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。